

ENTRY  
1SUZUKI, Masataka  
鈴木 政隆

## MESSAGE

食レキは、AIを活用して食事のライフログを“簡単に”記録することができるアプリです。食習慣を振り返ることで食事を楽しみ健康になれることを目的としていて、超健康高齢社会の実現を目指しています。



## BUSINESS PLAN

## 食レキ

## ▶事業概要

食レキは、食事のライフログを“簡単に”記録し振り返ることができるアプリです。それによって一人ひとりが食事を楽しむことができるようになり、食事の履歴を意識することで自然と健康を目指しているような状態を作ります。気付いたら健康な80歳になっているような社会を実現します。

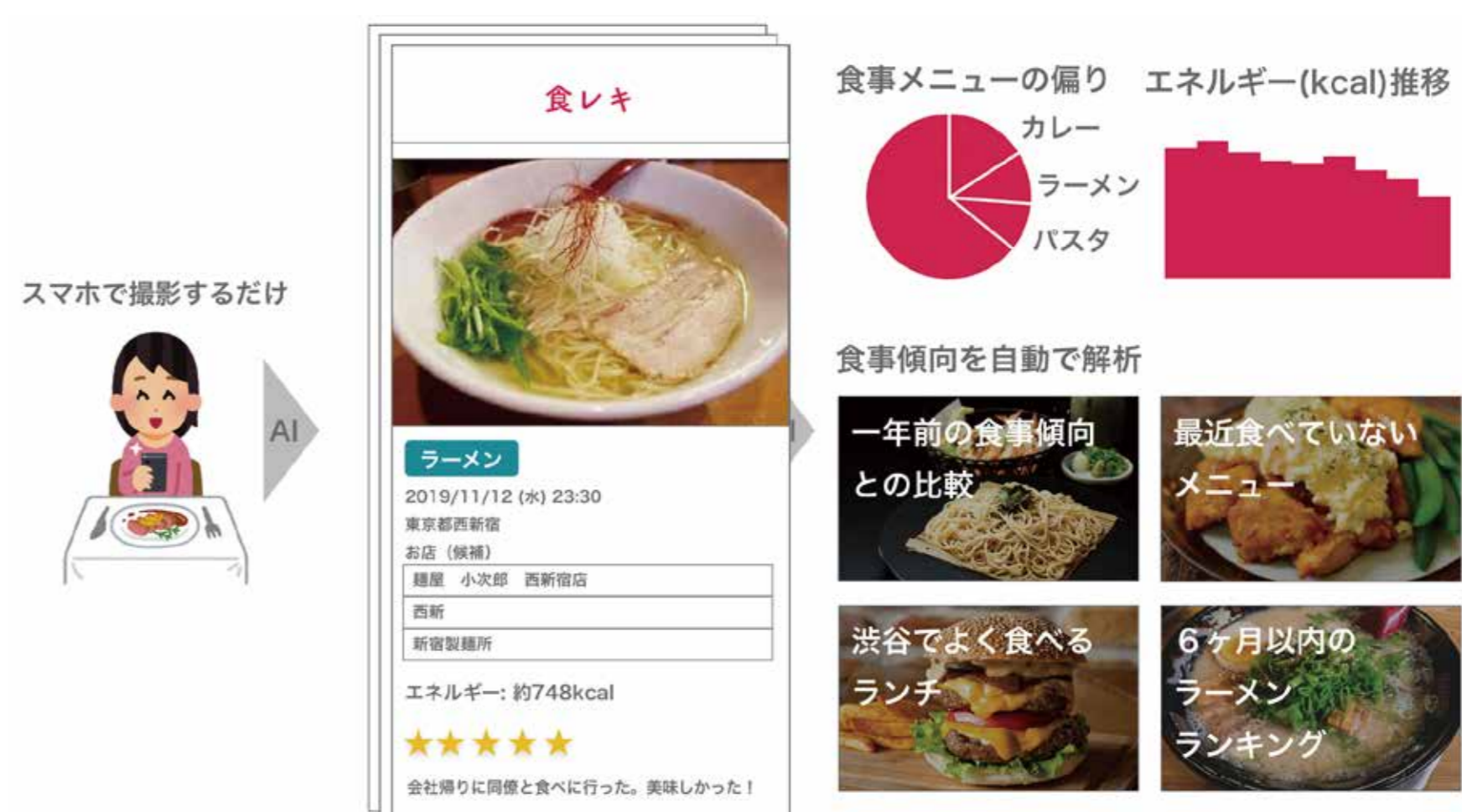
- ① ユーザが日々の食事を撮影するだけで、スマホに保存されている全ての写真の中から食事に関する写真だけをAIが自動選別
- ② 食事メニューのカテゴリーや時間、場所などを自動的に記録
- ③ 記録した食事のライフログを振り返る分析機能

## ▶アイデアのきっかけ

私自身が食べるのが好きで、次はどんなものをどんな風に食べようか？と考える時間やいままでの食事で美味しかったものなどを研究する時間も大好きなのですが、現状のツールで満足のいくように食事履歴を残しておくことが非常に難しいと感じていました。それならば、自分の専門である画像認識AIを活用して、もっと簡単に食事の履歴を管理できるアプリを自分で作ってしまおうと思い立ったのがきっかけです。

## ▶ビジネスのポイント

食レキの強みはAIを駆使することで実現する、シンプルなユーザ体験です。またメンバーも素晴らしく、画像認識AIの研究開発エンジニア、食系のベンチャーでの経験が豊富なプロダクトマネージャー、ヘルスケア型保険の先駆者であるデータアナリスト、人工知能の生物学への応用研究の経験があるメンバーなど、このプロジェクト内容にマッチした専門家集団がビジネスを成功させるために集まりました。



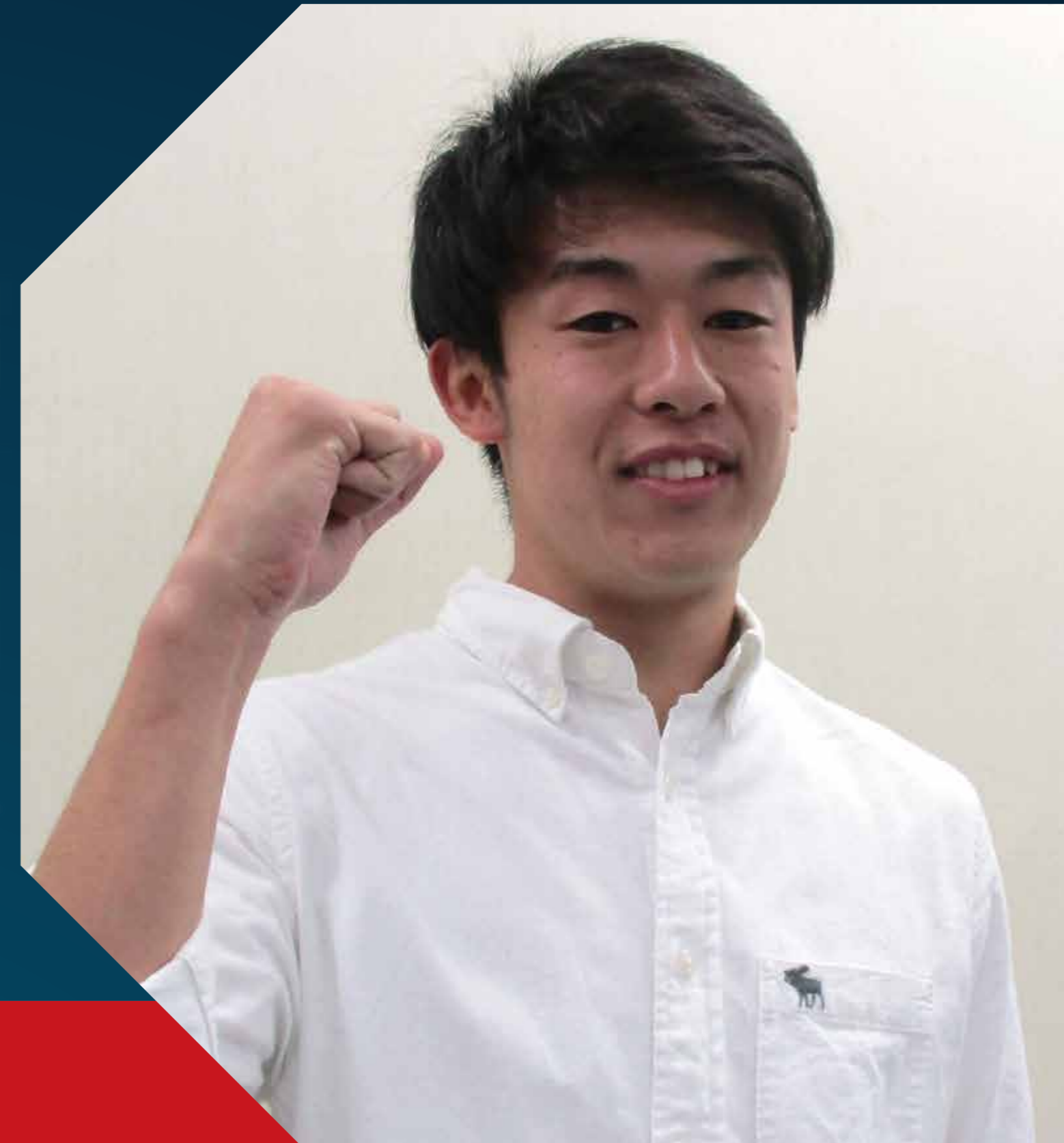
ENTRY  
2

MIYAUCHI, Reito

宮内 零斗

桜美林大学

ビジネスマネジメント学群



## MESSAGE

私たちは、体の不自由な方やその保護者の方が持っている服への悩みを解決し、誰もが自分の着たい服を着ることができる社会を作ります。この事業を通して少しでも笑顔が増えることを期待しています。

## BUSINESS PLAN

## 介護服リメイクのアイデア共有サイト運営

## ▶事業概要

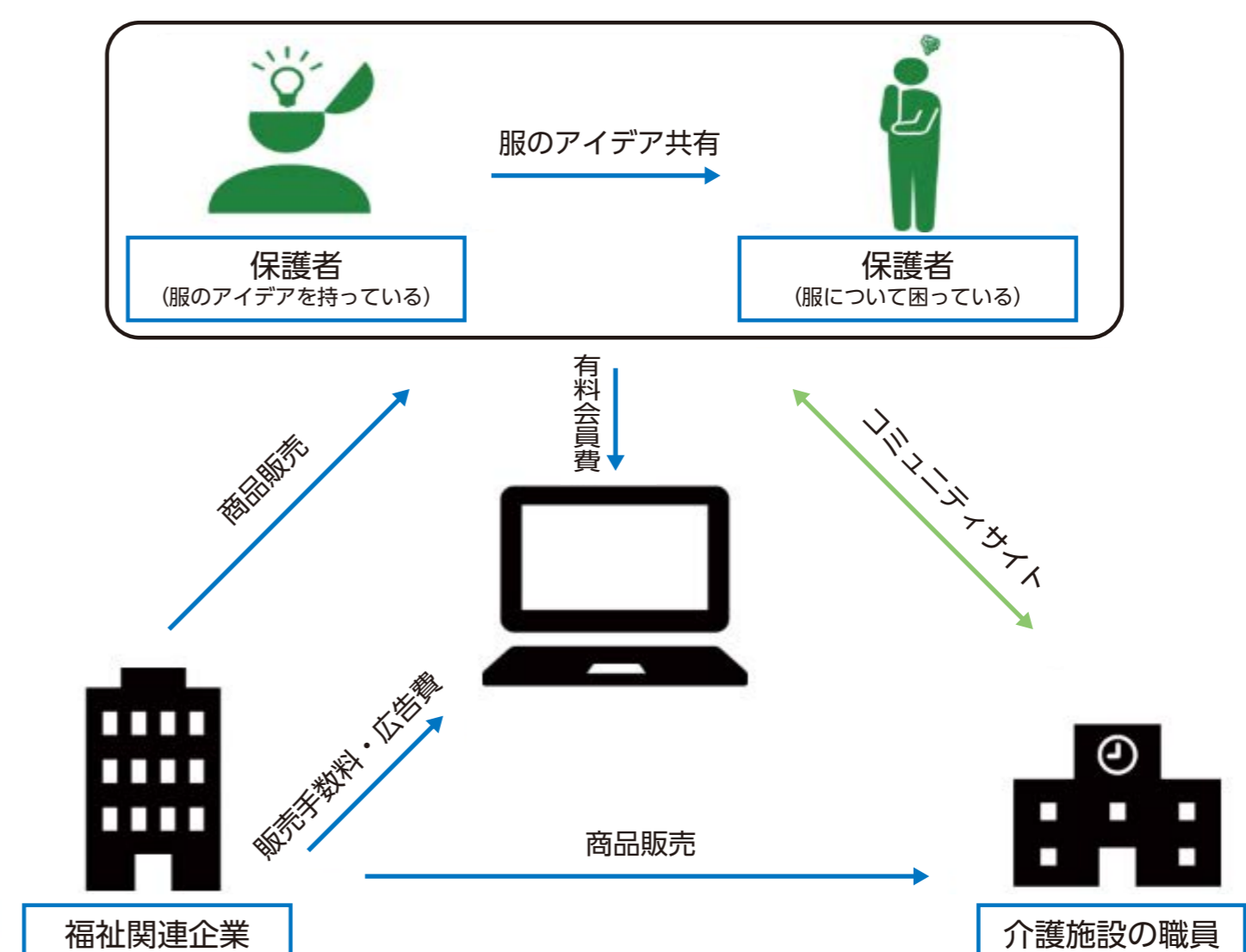
私たちは、肢体不自由の方向けに着たい服を着られるようにリメイクのアイデアをサイトで提供します。そのリメイクのアイデアは肢体不自由の子どもを持つ親御さんにサイトに掲載してもらいます。また、利用者同士で介護に関する様々な情報を共有するコミュニティサイトとしても利用してもらいます。将来的には福祉関連の企業に参入してもらい介護用品を購入できるようにし、介護に関することがすべて揃うサイトにしていきます。服の選択肢が少ない現状をこのサービスで変えて行き、肢体不自由の方でもオシャレを楽しんでもらえるようにします。

## ▶アイデアのきっかけ

父が介護施設を運営しているメンバーがおり、手伝いとして働いている際に服について課題があると感じました。そのことに関して介護施設にインタビューに行くと、想像以上の課題が存在していることが分かり、リメイクをして着させているという親御さんがいました。このリメイクのアイデアを広めることで課題を解決することが可能であると考えました。

## ▶ビジネスのポイント

とてもニッチな市場であるため大企業は参入しにくい。そのため競合他社が極端に少なく、ブルーオーシャンです。メンバーの父が介護施設を運営しているため繋がり数は数多くあり、協力もしていただきます。そして、インタビューをさせていただいた施設の職員・保護者の方々も協力したいと言ってくれています。また、SDGsの理念とも結びつき、日本国内だけでなく世界中で社会貢献ができる可能性があります。



ENTRY  
3MIYAGI, Hiroshi  
宮城 浩  
(株)FromTo

## MESSAGE

人生100年時代、働く環境や住む場所が見直される中、未だに「地方移住はハードルが高い」と言われている課題を解決します。新宿をロールモデルに地方との架け橋となるようなサービスを目指します。



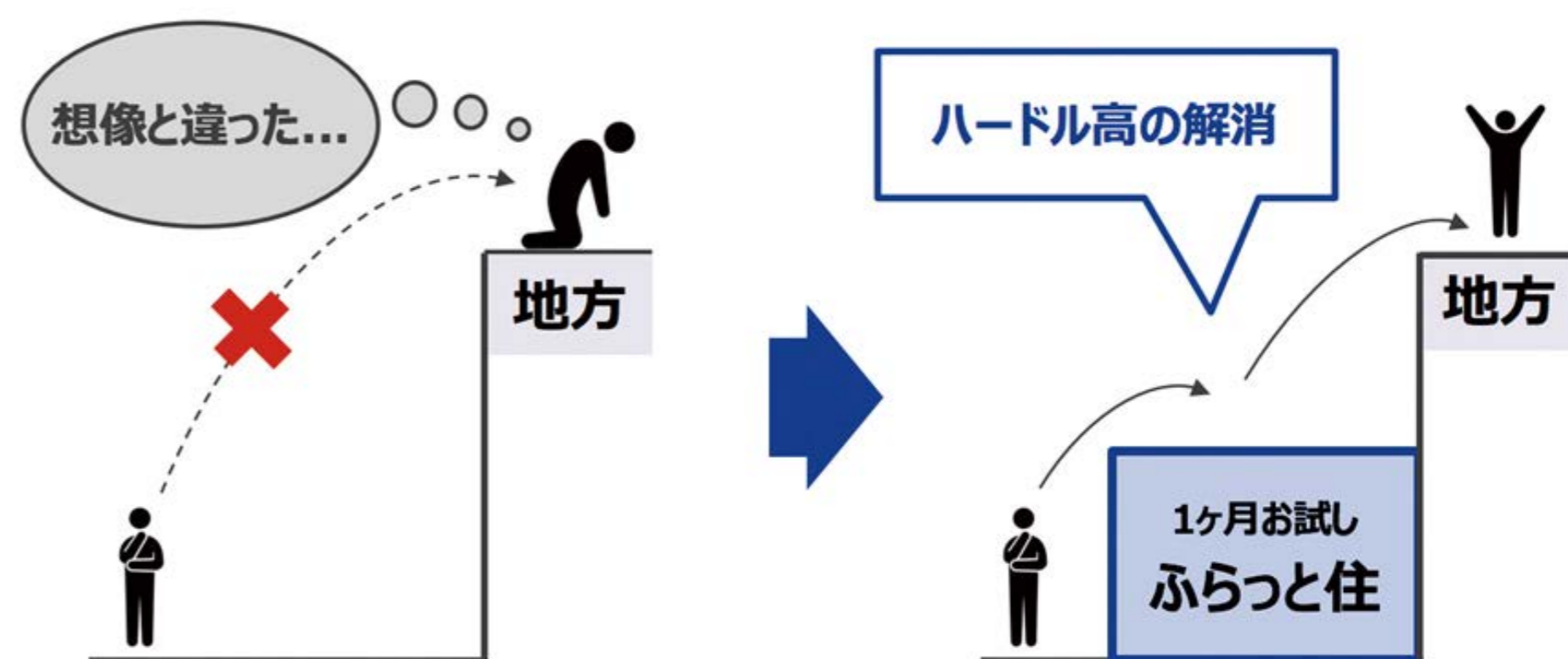
## BUSINESS PLAN

## 「試住」で繋がる関係人口プラットフォーム

## ▶事業概要

個人の地方進出を容易にするサービスです。地方での生活、仕事への不安をワンストップで解決し、「ふらっと」環境を変えられる仕組みを作ります。

- ・生活：地域住民、移住先輩目線で情報投稿ができる「スポット投稿」や「現地アテンド」といった事前の情報提供、そして1か月間のお試し移住「ふらっと住(じゅう)」による現地での情報収集、交流ができます。
- ・仕事：リモートワーク案件紹介企業と連携し、ふらっと住者に案件を提案します。また、地方でも週1~2回程度のお試し副業を皮切りに、地域に根付いた仕事への発展も可能です。



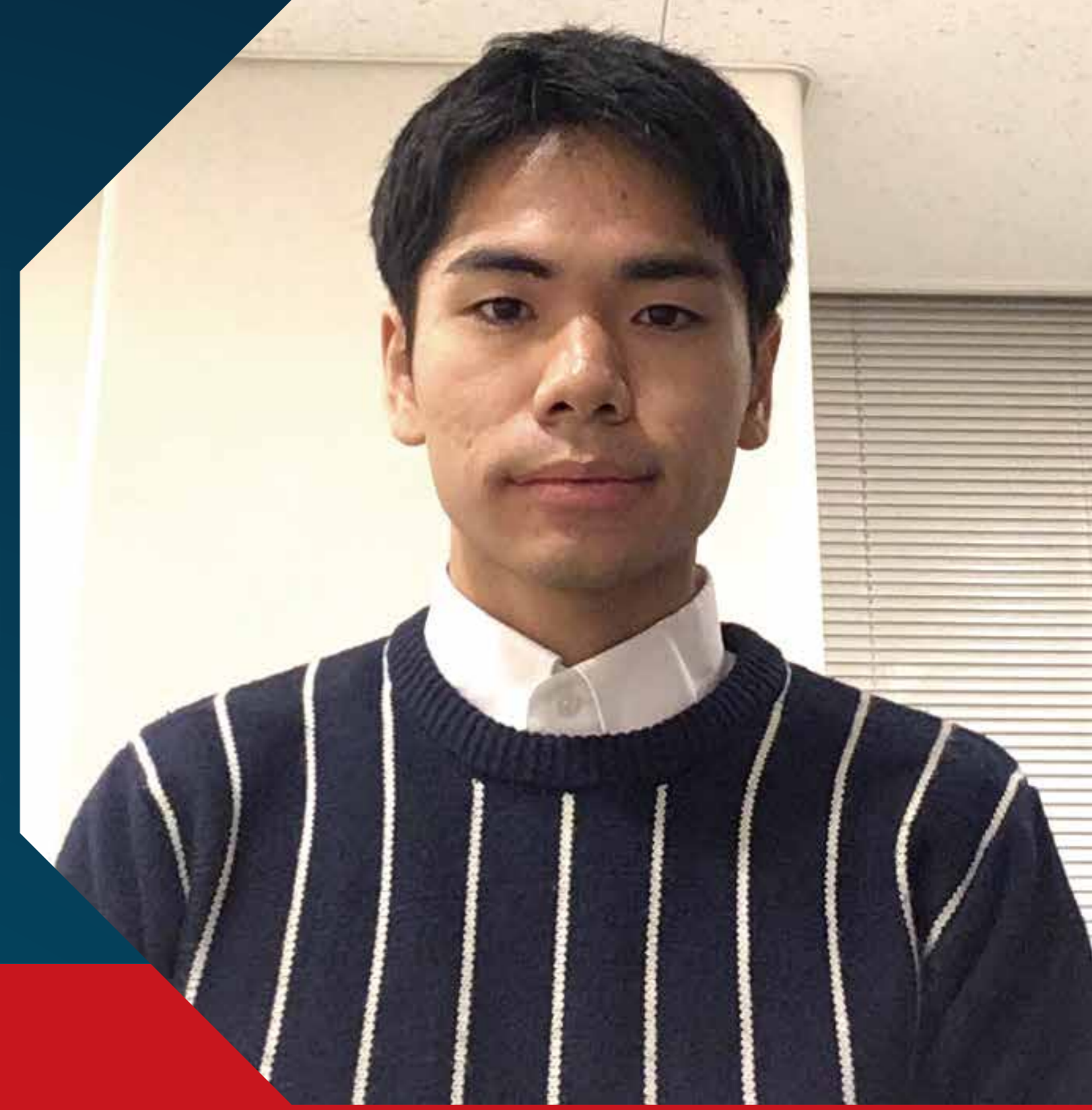
「ふらっと」環境を変える  
なめらかな地方進出を提供

## ▶アイデアのきっかけ

パラレルワーク、多拠点生活など、多様な働き方&生き方が可能なこの時代に、「『移住』だけハードルが高い印象」と疑問を感じたことがきっかけです。都会よりも地方のほうが能力を発揮できる人も多いはずですが、足踏みしてしまう理由としてそもそも「『移住』という言葉自体がハードルなのでは？」と考えました。そこで、地方へもっと「ふらっと」進出できるように『移住』に変わる言葉として生まれたのが「ふらっと住」です。

## ▶ビジネスのポイント

働き方の自由度が高いフリーランス層をターゲットにしていることです。他社サービスでは地方での雇用契約がほとんどですが、flatoは場所を選ばないリモートワーク案件に特化しているため、仕事に対する不安を解消した上で地方へと進出することができます。また、株式会社LIFULL様が展開するワーケーション施設『LivingAnywhere Commons』と提携し、ふらっと住拠点としての活用が決まっています。

ENTRY  
4TSURUSHIMA, Fumiya  
鶴嶋 史哉  
慶應義塾大学  
医学部

## MESSAGE

年間5万人強が感染する性感染症は、羞恥心や感染予防の認識不足により、20万人の潜在患者がいると考えられています。STDetectrorにより、受診のきっかけを作り、感染拡大を防止するサービスを提供していきます。

## BUSINESS PLAN

## STDetectror

## ▶事業概要

性感染症 (STD) に罹患しているか否かのリスクを自分で簡易的に評価できるアプリを無料で提供します。本アプリは問診及び画像認識にて、5つの性感染症(クラミジア、淋菌症、尖圭コンジローマ、性器ヘルペス、梅毒)の発症リスクを評価します。利用者は問診事項に回答し、病変部の画像の写真を送ることで学習された人工知能がスコアリングを行いレーダチャートにて各疾患の可能性についての提示を受けることができます。そして提示されたリスクをもとに診療所への送客を行うサービスです。

## ▶アイデアのきっかけ

同学年に感染者がいたことをきっかけにコモンな疾患であると認識し、リサーチを行ったところ厚生労働省の報告で年間55,000人が発症していることを知り、公衆衛生環境が整備されている日本でも、それだけ蔓延していることに衝撃を受けました。疾患が社会的に公にしづらい性質も相まって潜在患者数はおよそ4倍もいることが見積もられており、患者の受診を促すことができないかという課題意識を持ち、簡便性と評価の自動化を主眼において本サービスに行き着きました。

## ▶ビジネスのポイント

問診アプリや画像診断を行うアプリは多くあるが、対象疾患でSTDを主眼としていること、また送客を中心として位置付けていることが新規性です。他アプリは問診・画像診断に実際の医師の協力や独自のキットを用いる必要があることと比較し、本事業は実際の医師は要せずキットを用いないため簡便であること、性感染症は自由診療として治療されることが多く広告を用いてビジネスとの結びつきを強くすることができるのが優位性として挙げられます。



問診事項と画像から手軽にリスクを評価！

ENTRY  
5MUTO, Takafumi  
武藤 高史  
カイトク(株)

## MESSAGE

日本の最重要課題を救う介護ワークシェアリングサービス「カイスケ」。業界初の介護の短時間での仕事を可能にし、隙間時間の有効活用をしていくことで「介護人材不足問題」の解決に挑みます。

## BUSINESS PLAN

## 介護ワークシェア「カイスケ」

## ▶事業概要

日本は人類が未だ経験したことがない「超高齢社会」に直面しており、2025年には国民の3人に1人が65歳以上という状況を迎えます。日本の介護需要が高まる中、介護業界を担う介護職の「人材不足問題」が業界の最重要課題となっています。しかし、国を含めて誰も明確な打開策の糸口が掴めていないのが現状です。そこで、私たちが本気でこの問題を解決するために開発したのが、業界初の介護ワークシェアリングサービス「カイスケ」です。

## ▶アイデアのきっかけ

私自身が介護の現場で働き、さらに採用の担当者としても業務をする中で、介護事業所の「人材不足」といっても様々な人材不足の波(種類)があることが判明しました。一方で、介護労働力側は、眠っている潜在介護士も多くいることが分かり、ここを掘り出し上手く繋げることができるプラットフォームであれば、介護人材不足問題を解決していけると確信しました。

## ▶ビジネスのポイント

「カイスケ」はWeb上で「介護資格証の認証⇒仕事探し⇒仕事確定⇒勤務⇒評価⇒給与受取」までを、簡単な操作で完結できます。「カイスケ」によってこれまで介護業界では成し遂げられなかった短時間での勤務を実現させ、時間や生活の制限から定時勤務や正社員として働くことのできなかつた「潜在介護士」を掘り起こし、介護労働力を増加します。さらに、介護職と介護事業所のミスマッチを減らし、離職防止にも寄与していきます。史上初の試みとして、介護職のスキル評価の見える化を可能とし、AIを活用してスキル評価に連動して報酬が変動する仕組みの開発も計画しています。



ENTRY  
6

SUGAWARA, Mizuki

菅原 瑞貴

(株)ユニバーサル  
トレーニングセンター

## MESSAGE

我が国の障害者数は年々増加していますが、そんな障害者を取り巻く環境はまだまだ十分とは言えません。我々は障害者のヘルスケアを行うことで身体面・生活面で彼らの可能性を引き出し、日本の戦力を増やしていきます。

## BUSINESS PLAN

## 障害者に特化したヘルスケア事業

## ▶事業概要

障害者のトータルヘルスをデジタル管理できるサービスです。近年、様々なサービスがデジタル化してきたものの、障害者に対してはまだまだ十分な環境が作れていません。私が障害者専門トレーナーとして培ってきた経験を基に自身のトレーニングを標準化し、医療従事者を介して障害者のヘルスケアを可能とするプラットフォームを構築します。

Step 1: 自身のトレーニング標準化・合併症に関する課題解決

Step 2: 車椅子動作に関連する課題解決

Step 3: 障害者の身体活動データを管理・プラットフォーム化

これらのステップを通し障害者の生活レベルを向上させ、障害者雇用が高まる日本の戦力を増やします。

## ▶アイデアのきっかけ

障害者を取り囲む課題は「立てない」「歩けない」といった目に見える点だけでなく、その他にも多くの課題が存在します。私は障害者専門トレーナーとして長年活動する中でその課題に直面し、当事者と寄り添いながら解決してきました。しかしながら、パーソナルトレーニングでは多くの障害者にアプローチできないという葛藤がありました。一対一で当事者に寄り添ってきたからこそわかる課題を解決したい、そして多くの人に届けたいという想いから今回のアイデアに至りました。

## ▶ビジネスのポイント

米国でのプロチームやリオパラリンピックなどで得た経験を基に障害者専門のパーソナルトレーナーとして活動してきました。そしてこのような障害者に特化したヘルスケアのノウハウを持っている企業は他にはありません。医療制度内で当事者の負担が少なく遠隔で障害者のヘルスケアができるこのシステムは障害当事者の課題解決だけでなく、高齢者への応用、そして医療費の削減など日本が直面している問題の解決にも繋がります。

